



史跡ウォールデン・ポンドで米軍基地に抗議する日本人平和活動家たち。撮影者：ジョセフ・ガーンソン

海底に誤って落としてしまった事故があります。もっと頻繁に起こるのは、イタリアで海軍兵士が操縦する低空飛行中のジェット機がスキーリフトのケーブルに接触し20人が犠牲になった事故や、射撃演習中に的をはずした弾丸に当たってプエルトリコのビエケス島で市民が亡くなったり、韓国のメヒャンリ村では家屋が壊れた事故、また沖縄の金武町で実弾訓練の流れ弾や葉莖が市民の家や所有物に当たった事故などがあります。

米国市民団体フレンズ奉仕委員会

平和構築部

10 基地にかかる多額の支出が、社会全体に必要な事業への予算を圧迫しています。

米国防総省は何百億ドルもの大金を海外軍事基地につぎ込んでいます。その使い道は戦闘能力増強に加え、兵士家族のための住宅や、兵士とその家族に割り引き特典が与えられる物資販売所、ゴルフ場の新設などです。その一方で、米国内や基地を保有する国の人々の社会的・人道的需要は満たされずにいます。日本などの基地のある国々では、

現地住民が平凡以下の家屋で社会福祉もなく暮らしているのに、国民の税が横柄な米軍基地や贅沢な住宅施設のための支払いに使われていることに対して怒りが増えています



ストライカー旅団の住宅地域への移転案に抗議するハワイ原住民たち。撮影者：イカイカ・フセイ

Contact us:

American Friends Service Committee
Peacebuilding Unit
1501 Cherry Street
Philadelphia, PA 19102-1403
215/241-7179
fax: 215/241-7177

E-メール: mtakahashi@afsc.org
www.afsc.org/peace/peaceprogram/



American Friends
Service Committee

米軍基地撤退! 10の理由 (日本語訳)



American Friends
Service Committee

1 基地は戦争の起こる可能性を高めています

米国は世界中に前例を見ない700以上もの軍事基地をもっています。これらの基地は、近年ではイラク戦争、1998年のセルビア戦争、パナマ侵攻、現在続いているコロンビアとフィリピンでの戦争において、重要な役割を果たしています。日本と韓国には合わせて200を越す米軍基地や施設があり、米国の対北朝鮮・中国戦争も夢のような話ではありません。

2 基地は核兵器の発射地点になります。

多くの面において、核兵器による先制攻撃作戦はベルギー、英国、ギリシャ、ドイツ、オランダとトルコにある米軍基地にそれらの兵器を装備することでなりたっています。英国、日本、オーストラリアなどにある通信基地は、先制攻撃命令を伝えたり、(敵国が放った)核やその他の高技術兵器に対応するための指揮を伝える要所にあたります。

3 基地は国家の主権を侵しています。

米国は、中国とアジア諸国、南米の市場を征服するのに理想的な基地の立地点だったハワイ、グアム、フィリピン、プエルトリコ、キューバを侵略、占領しました。植民地の政府は基地存続を強制されたり、又はその目的のために米国によって設けられました。日本、ドイツ、セルビアなどの敗戦国には、米軍基地の長期存続を求めてきました。この伝統にならない、ブッシュ政権はイラクにある「恒久的」基地に年間約12億円を費やしています。

4 基地は民主主義と人権を脅かしています。

米国は他国の独裁者や抑圧的政府を支持、又は任命してきました。ニクソン、フォード、カーター、レーガン各大統領は、フィリピンの戦略的地理にある米空・



プエルトリコのビエクス島にある米軍基地に反対して国際共同体が掲げた標識。撮影者：ナタリア・カルドナ

海軍基地を存続するため、10年以上にわたり残忍なマルコス独裁政権を支援しました。サウジアラビアとクウェイトでは厳格政治をしいた王を擁護し、米軍基地と石油の優先的入手権利を掌握していました。また基地は、ハワイとグアムの原住民族文化の衰退に加担しています。

5 基地は住民が所有する土地に立てられています

まず最近韓国のデチュリ村で起こった、米軍司令部を建設するため、住民による反対運動にもかかわらず村がブルドーザーで更地に戻されたというのは珍しい例ではありません。軍事基地は大概、国家によって強制的に米国に「貸しつけ」られた民間個人の所有地や住民が共同で使用している土地に立てられています。一番極端な例はディエゴ・ガルシアです。長さ2マイル(約3.2km)の滑走路と巨大な海軍港を敷設し使用済み兵器を設置するため、全ての島民が強制離島させられました。

6 基地は、女性や女子への乱暴で非人間的な接し方を助長します。

海外基地は、現地や貧しい国の女性や女子、女性

兵、そして米軍兵の家族の安全を脅かしています。海外基地に駐在している兵士が「休養をとりくつろぐ」ための地域社会での活動によって、現地のこどもと女性、特にセックス産業の労働者は性的いやがらせや強姦、暴力、強盗の危険にさらされています。そのような性的暴力の程度は、基地が存在する国の(国際政治においての)力関係が影響しているようです。去年フィリピン人女性に対して強姦を犯した数人の海軍兵士は、比米軍事基地協定によって保護されました。それに対し、石油の豊富な湾岸諸国と米国の間の協定は、部分的ではありながらも現地女性を米兵による性的暴力から守っています。(派遣先での暴力に加え、)本国に帰国した米兵が家庭内暴力を始める例もあります。また、男性兵が女性兵を強姦する事象は海外派遣の期間が長くなるにしたがって悪化します。

7 基地は米兵が犯す犯罪行為を黙認しています。

ほとんどの米兵は法を順守していますが、多くの場合、一人になり酒に酔った兵士が比較にならない数の犯罪を犯しています。一層悪いことに、彼らは不

平等な条約が米軍に与える「隊員に対し法的措置をとる権限」によって守られています。韓国で米軍の戦車が二人の少女をひき殺し、誰も責任を問われなかった事件は深い傷を残しました。今年フィリピンで、米海軍兵が強姦の罪で有罪判決を受け上訴中、米国はこの海軍兵を裁判官が言い渡した同国にある刑務所ではなく、領事館に引き渡すよう高い外交的圧力をかけて迫りました。しかしながら、米兵隊員は一方的に危害を加えるだけでなく、与えられた境遇の中で苦悶しています。現地の文化、言語、社会状況に関する理解と派遣のための準備が不十分なまま海外派兵され、そのために周囲の環境に怒りと恐れを抱き、犯罪に走ってしまう傾向があります。

8 基地は環境を汚染し重度の健康被害を及ぼします。

2000年、米国務長官マデレーン・オルブライトはフィリピンにある米軍基地が原因で起きた「深刻な公共的・環境問題」を認めましたが、一貫して危険残留物を除去する法的責任はないと繰り返しました。米国防省は、ヨーロッパで軍事目的のため利用された少なくとも70ヶ所で、米軍基地が深刻な環境被害を及ぼしたことを確認しています。軍事で使用される様々な有害物質が広範に頒布し、多くの場合、肺がん、血液障害、白血病、潰瘍、肝臓と脳への損傷、中枢神経損傷などの、命にかかわるか又は機能不全を起こす病気につながっています。ひどい例では、米軍がソウルを流れる漢江に直接ホルムアルデヒドを流しているところを見つかっています。

9 基地は命を脅かす事故の脅威をもたらします。

軍事での事故は、人々の命を奪ったり傷害を与えます。中でも核兵器の絡む事故は一番危険性が高く、一例として、攻撃航空機が航空母艦ティコンテロガを原子爆弾と共に沖縄から80マイル(約128.7km)離れた地点、深さ2マイル(約3.2km)の

